

鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想案に対する市民コメントの結果について

- 募集期間 令和5年2月1日（水曜日）～3月2日（木曜日）
- 意見提出 6件（4名） 《受付方法：電子申請 3件、HP経由 1件、FAX 2件》
- 計画への意見反映状況

区分	反映の状況	件数
A	意見を反映し、案を修正したもの	0件
B	案の中に既に意見の趣旨が含まれているもの	1件
C	案は修正しないが、実施段階で参考としていくもの	3件
D	意見を反映できなかったもの	1件
E	その他	1件

●意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市としての考え方	反映状況
1	以前あった「ふろいで」のような温浴施設を希望する。ここ数年、コロナ禍で地域の触れ合いの場が遮断されるなか、公衆浴場でのクラスターや新型コロナウイルスに発症した例はカラオケや小規模飲食店などに比べ非常に少なく、老若男女共に癒しの場になったと感じている。また、費用面では大規模な金額を投資するのではなく、昔ながらの銭湯規模にし、その他公衆浴場の許可ではなく、一般公衆浴場の営業許可にて申請し、コスト削減に努める。また、行政の場としての活用も視野に入れ、公民連携事業としての「入浴型複合施設」の活用が好ましい。	「鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想」は、令和2年度に策定した「鶴ヶ島市立地適正化計画」の考え方に基づくものです。この立地適正化計画には、市が立地を誘導したい施設を「都市機能誘導施設」として定めています。 市の「都市機能誘導施設」には、ご提案いただいた温浴施設は含めていないため、現時点で立地を誘導する予定はありません。 なお、立地適正化計画は必要に応じて見直しを行います。今回の提案内容は、見直しの際に参考とさせていただきます。	C
2	鶴ヶ島駅周辺にバスターミナルを設置してほしい。近隣には工場や大学が多いことから、電車が動かなくなった際にバスを利用できるまちは魅力がある。また、高齢化が進む中で、つるワゴンのルートが市内のみならずより広範囲になると便利であると感じる。 なお、鶴ヶ島駅周辺にこれらの機能を集中すると混雑することから、鶴ヶ島駅と圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺（運動公園）を結んでピストン輸送し、圏央鶴ヶ島インターチェンジ周辺にバス会社の発着所を設けることを提案する。バスツアーや深夜バスにより、川越・大宮、大学病院、羽田、東京駅とつながると県南西部地区の住民は大変便利になるのではないかと。	「鶴ヶ島駅周辺地区まちづくり構想」は、令和2年度に策定した「鶴ヶ島市立地適正化計画」の考え方に基づくものです。この立地適正化計画には、市が立地を誘導したい施設を「都市機能誘導施設」として定めています。 市の「都市機能誘導施設」には、ご提案いただいたバスターミナルは含めていないため、現時点で立地を誘導する予定はありません。 なお、立地適正化計画は必要に応じて見直しを行います。今回の提案内容は、見直しの際に参考とさせていただきます。	C
3	鶴ヶ丘児童公園のリニューアルにあわせて、鶴ヶ島駅から公園までのバスルートを創設してほしい。せっかく公園をリニューアルしても、駅から歩くとなると市外の方々に敬遠されてしまうのではないかと。	今回の構想案では、本地区の目指す将来像を「歩きたくなる くつろぎ と にぎわいのまち」として行います。これは、鶴ヶ丘児童公園のリニューアルにあわせて、鶴ヶ島駅までの道を快適な歩行空間とすることで、商店街のお店などにも立ち寄ってもらいたいとの考えからです。そのため、歩行者のみではなく、車いすやベビーカーの方も安全に通ることができるような道路整備を進めてまいりたいと考えています。 なお、バスルートについては、定期的につるバス・つるワゴンのルートやダイヤの見直しを実施しています。ご意見をいただいたルートに関しては、今後、共栄鶴ヶ丘線の整備（鶴ヶ島駅から若葉駅までを結ぶ区間を新たに整備）が進む予定ですので、道路整備状況に併せた見直しを検討してまいります。	C
4	一刻も早く安心・安全に通行出来る駅通りに改修してほしい。 長年この通りを歩くか自転車に乗るかして利用してきたが、大変歩きにくく、車椅子の利用者や手押し車を押す高齢者にとっても不安定この上ない。市としてまちづくり構想を進めるのと同時に、暫定的に歩きやすい歩道への整備・改修を検討し、できる限り早期に実施していただくよう要望する。一定の予算が必要とは思いますが、多くの住民がそれを望んでいると思う。	今回の構想案では、まちづくりの4つの方針の一番最初に「安全で居心地が良く歩きたくなる道路空間の形成」を掲げています。鶴ヶ島駅通りの安全対策に関する要望は特に多く寄せられていることから、すぐに実施可能な区間を先行して行うなど、早期に鶴ヶ島駅通りの整備に着手できるように進めてまいります。	B

No.	意見の概要	市としての考え方	反映状況
5	<p>鶴ヶ島文化会館の敷地に、これまで文化会館が果たしてきた自治会活動を支える地域交流の拠点としての機能、身近な行政窓口としての機能、さらに休憩スペース・カフェ機能などを新設した複合施設として南市民センターを移築する計画は、敷地が狭く、広い駐車場スペースの確保が難しいなど無理な計画であり、海洋センター跡地などに移設先を変更すべきではないか。</p> <p>2024年5、6月に関水金属工場が完成して稼働を始めれば、文化会館前の通りは朝夕200台前後の通勤車両が通行する。鶴ヶ丘児童公園の再整備とNゲージガーデンパークもオープンに伴い、同公園を見ようとかかりの人が来ることが予想され、当然交通混雑も予想される。複合施設を建設する上で、これも不安材料であること指摘する。</p>	<p>新たな地域交流施設の整備に当たっては、「1. 公共施設の老朽化対策」、「2. 公共施設の集約・複合化による総量の抑制」、「3. 借地の解消」の3つの課題を解消することが必要と考えています。また、鶴ヶ島文化会館との統合となることから、鶴ヶ島文化会館運営委員会の現在地において建て替えたいという意向も欠かせない要素です。こうした考え方を踏まえ、新たな地域交流施設を他の場所で統合・複合化することは、現時点では考えていません。</p> <p>敷地や駐車場の広さに対する懸念についてはご指摘の通りと考えていますので、今後、必要な施設機能や規模を精査し、当該敷地の場所や広さに見合った施設となるように検討してまいります。（新たな地域交流施設の規模（延べ床面積）は、現在の南市民センターよりも縮小することを想定しています。（※））</p> <p>なお、南市民センターをはじめとした市の公共施設の設置・運営に当たっては、周辺の交通安全対策等を含めて市の責務であると認識していますので、移転の有無や移転先の場所にかかわらず、必要な対策を講じてまいります。</p> <p>また、長期的な視点からは、高齢化により自動車の運転が困難な方も増えていくことが想定されます。そのため、自動車中心から歩行者中心のまちへと転換できるよう、生活に必要な機能の集約を図りながら、公共交通の利便性向上や、歩きやすい道路環境の整備に努めてまいります。</p> <p>（※）新たな地域交流施設の規模について</p> <p>鶴ヶ島市は、今後も急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少に転じる見込みです。令和元年度に市が実施した推計では、2060年には人口が5万人を割り込み、高齢化率は44%を超える見込みです。特に、鶴ヶ島駅周辺地区は市内でも早期に市街化が進行したことから、市全体と比較しても急速な人口減少・少子高齢化が進行しています。しかし、市の公共施設の多くは、人口急増期の昭和50～60年代に建設されており、施設機能や規模についても人口増加を前提として考えられています。そのため、今後見込まれる人口減少・少子高齢化の進行を見据えた施設機能や規模への見直しが必要です。</p> <p>こうした背景から、市では、今後の公共施設の管理・運営方針を「鶴ヶ島市公共施設等総合管理計画」としてまとめています。将来にわたって、必要な市民サービスをしっかりと提供できるようにするためには、現在も将来も含めたすべての市民の公平性を常に考え、将来世代に負担を先送りすることのないようにしなければなりません。先に述べた3つの課題（公共施設の老朽化対策、公共施設の集約・複合化による総量の抑制、借地の解消）は、こうした観点から非常に重要なことであると考えています。</p> <p>こうしたことから、新たな地域交流施設の整備に当たっては、現在の南市民センター及び鶴ヶ島文化会館で重複する機能や設備等を集約することに加え、多目的利用が可能につくりやすくなることなどによって、必要な施設規模を確保しつつ、延べ床面積の抑制に努めてまいります。</p>	D
6	<p>若葉駅前出張所の空間を、誰もが立ち入りやすいように活用できるようにしてほしい。</p> <p>ワカバウォークは多くの世代の人が利用し、行き交う場所である。そのため、例えば、子育てしているお母さんたちが買い物の合間に安心して立ち寄る（絵本や紙芝居が見られるなど）ことができるスペースであったり、フードコートより安心して落ち着いていることができる作業スペースを作ることがメリットとなるのではないかと。</p> <p>また、鶴ヶ島市の活動を広めるためにもガラス張りの外側にみえるよう展示にすることも考えられる。小中学校で選抜された子の作品等を展示することなどにより、視覚化され、温かみのある空間になると思う。</p>	<p>鶴ヶ島駅周辺地区以外のことに対する具体的な提案ですので、関係部署と共有し、今後の参考とさせていただきます。</p>	E